

第5章 歴史文化資源の保存・活用に関する将来像, 基本的な方向性

第1節 目指すべき将来像

本市の歴史文化は、本市の大きな特徴である「火山銀座」と呼ばれる他に類を見ない自然環境によって育まれたものである。

そして、本市の多様な歴史文化資源は、第3章で示したように、「火山銀座を基礎として生み出された指宿」、「原始・古代の開聞岳火山災害」、「松尾城と中世・近世・近代の指宿」、「山川港を中心とした南との交流」、「薩摩国一宮杵間神社を中心とした信仰」、「今和泉島津家と岩本」、「幕末名君と豪商の足跡」といった特徴を形成している。

このような、本市の歴史文化資源を「よく知ること」、「守っていくこと」、そして「活用すること」の三つの中心的視点を、歴史文化資源の保存と活用に関する将来像に据える必要があると考える。

一方、地域計画の上位計画である第二次指宿市総合振興計画（後期基本計画）には、基本目標として「郷土を愛し未来を拓く心豊かな人材を育むまち」を示している。また、指宿市教育大綱の施策の重点事項には、「指宿まるごと博物館を生かした人づくり」を示している。歴史文化資源を知り、守り、活用することのためには、その担い手が不可欠であり、人づくり抜きに目標の達成は考えられない。したがって、地域計画では、「人材の確保」を歴史文化資源の保存・活用の方向性に入れることにする。

以上のことから、本市は本市の歴史文化をよく知り、それに誇りと愛着を持つ市民を増やしていき、様々な場面で歴史文化を活用するような市を目指すこととし、歴史文化資源の保存と活用に関する将来像を以下の通り定めた。

＜歴史文化資源の保存と活用に関する将来像＞

火山銀座に育まれた歴史と文化の光を知り、まるごと守り活用するまち 指宿

第2節 本市が目指すべき歴史文化資源の保存・活用に関する方向性

本市が目指すべき歴史文化の保存・活用に関する方向性を次の4つとする。

1 方向性1 歴史文化資源を「知る」

本市の歴史文化資源の保存・活用をするためには、歴史文化資源について「知る」ことが重要である。そのために、歴史文化資源の継続的な調査・研究を実施すること、調査については研究機関等とも積極的に連携し、そして、調査によって得られた歴史文化資源に関する情報については積極的に発信することに取り組んでいく。

2 方向性2 歴史文化資源を担う「人材を確保する」

本市の人口減少や高齢化の進行は、歴史文化資源を継承する担い手の減少や後継者の不足につながっている。第1節で述べたように、歴史文化資源の保存と活用推進のためには、人材確保が欠かせない。そのために、歴史文化資源の保存団体を設立し担い手を確保すること、地域行事をとおして担い手を確保すること、地域学校協働活動で人材を確保すること、観光分野において歴史文化資源を活用する人材の育成に協力すること、そして、文化財行政に携わる人材を確保することに取り組んでいく。

3 方向性3 歴史文化資源を「守り伝える」

本市の歴史文化資源については、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡など主要なものについては、その保存と管理が適切に進められているが、歴史文化を「守り伝える」ためには、その他の歴史文化資源についても、継続的状況把握、指定による保存、犯罪や災害への備え、保存施設、修理や整備が不可欠である。そのために、歴史文化資源カルテを整備することや、指定等制度を活用すること、防災・防犯対策を講ずること、博物館で保存に努めること、修繕・整備を実施することに取り組んでいく。

4 方向性4 歴史文化資源を「活かす」

本市は変化に富んだ火山地形をはじめとして、数多くの歴史文化資源に恵まれている。その歴史文化資源を「活かす」ためには、各年齢層の市民の学びや市外から来訪する人々による活用、主要産業である観光への活用が求められている。そのことから、本市の歴史文化資源を、地域や学校、博物館での学びに活かすとともに、観光で活かすことに取り組んでいく。

本市が取り組む、歴史文化資源の保存と活用に関する将来像と基本方針の関係性は以下のように整理される。

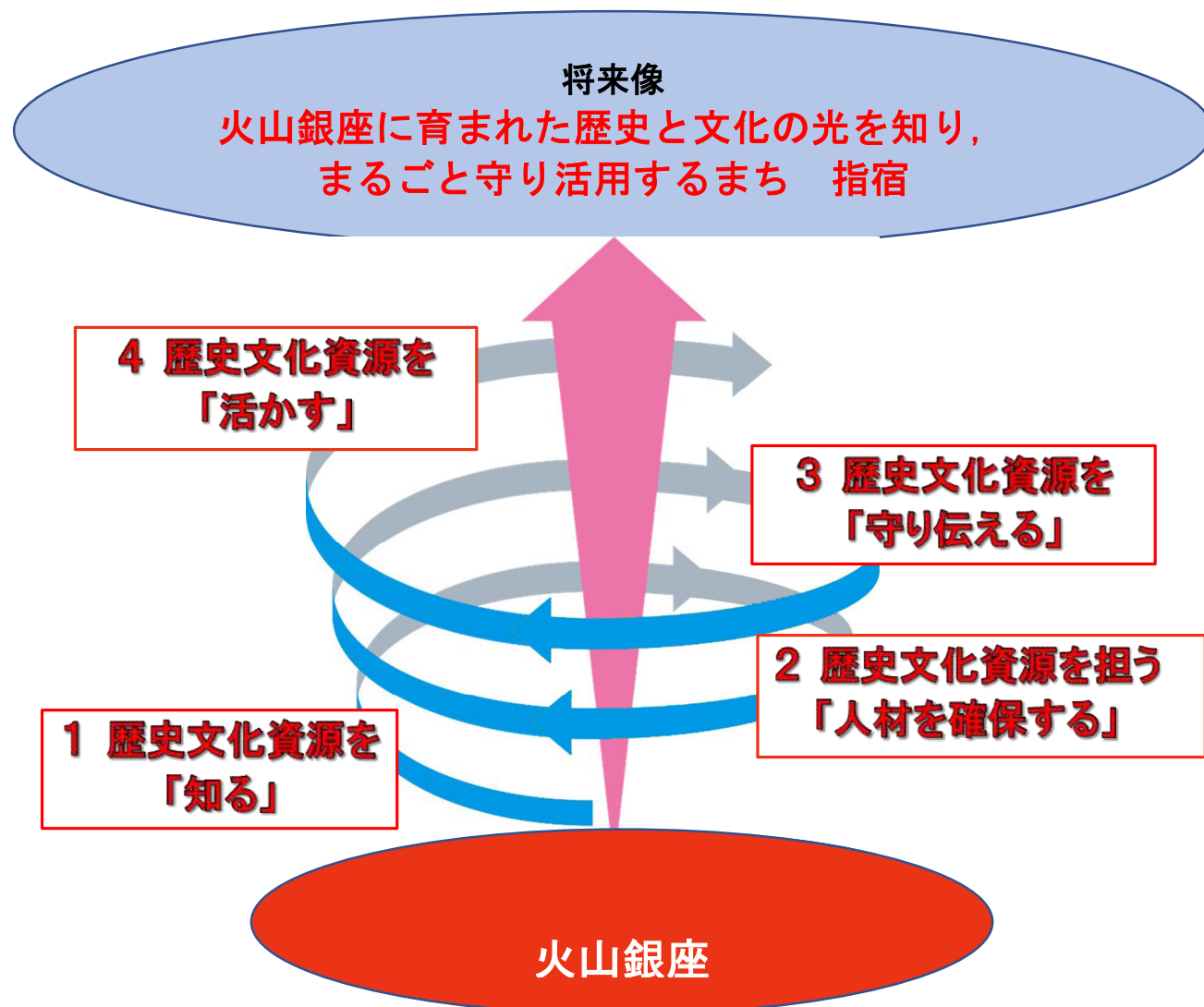


図104 保存と活用に関する将来像及び基本方針の関係

第3節 歴史文化資源の保存・活用における方向性に関する課題

1 方向性1 歴史文化資源を「知る」上での現状・課題

・把握調査が未着手の歴史文化資源の散逸、消滅の懸念

本市で実施されてきた歴史文化資源に関する調査では、有形文化財の美術工芸品（絵画）、無形文化財、文化的景観については把握調査が未着手である。また、文化的資産のうち、方言の調査については市誌・町史の刊行以降行われていないといった現状がある。

このため、歴史文化資源が存在を知られないまま散逸、消滅することが懸念されるという課題がある。

・詳細な調査が行われていない歴史文化資源についての対応

地域計画作成に伴う悉皆調査によって、所在が明らかとなった歴史文化資源に関しては、詳細な調査が行われていないといった現状がある。

このため、未だ知られていない価値を有する歴史文化資源が遺っている可能性があることから、詳細な調査への対応が課題となっている。

・様々な学問分野の調査をどのように進めるか

本市の文化財担当職員は、埋蔵文化財の専門職員のみであるため、埋蔵文化財以外の分野の調査が少ないといった現状がある。

このため、様々な学問分野の調査をどのように進めるかが課題である。

・多くの人に伝わるような情報発信の方法

歴史文化資源については、指宿市考古博物館時遊館COCOはしむれにおいて、企画展で展示することによって紹介しているが、依然認知度が低く、歴史文化資源の魅力が伝わりにくいといった現状がある。

このため、多くの人に伝わるような情報発信の方法が課題となっている。

2 方向性2 歴史文化資源を担う「人材を確保する」上での現状・課題

・歴史文化資源の今後の担い手問題を検討する機会の設置

本市では郷土芸能の担い手不足が原因で、活動を休止する保存団体が出始めている。また、指定等の歴史文化資源の所有者等は、相互に情報共有の機会がないといった現状がある。

このことから、歴史文化資源の今後の担い手問題を検討する機会を設ける必要があるという課題がある。

・地域住民が歴史文化資源に関わる機会をどのように増やすか

これまで地域コミュニティでは、地域住民の繋がりを深める目的で歴史文化資源を活用する行事を行ってきた。しかしながら、近年の少子高齢化や若い世代の多忙化、そして新型コロナウイルス感染症拡大の影響により歴史文化資源を活用する機会が大幅に減少しているといった現状がある。

このため、地域住民が歴史文化資源に関わる機会をどのように増やすかという課題がある。

・歴史文化資源を活用して学校の教育活動を支援する人材の確保

本市では学校の教育活動において、歴史文化資源を活用した『「いぶ好き」ふるさと学』が行われ、地域住民からなる学校応援団が、教育活動の支援を行っている。しかしながら、それを担う住民が不足しているといった現状がある。

このため、歴史文化資源を活用して学校の教育活動を支援する人材の確保が課題となっている。

・観光客が興味を持つような新たな観光ルート設定などを通じた観光ガイドの人材確保

大河ドラマの放映に伴い、指宿市観光協会によって観光ガイドによるまち歩きが開始されたが、近年利用

者が大幅に減り、観光ガイドが減少するといった現状がある。

このため、観光客が興味を持つような新たな観光ルート設定などによる観光ガイドの人材確保が課題となっている。

- ・ **歴史文化資源に興味関心の高い市外の人材の活用**

歴史文化資源の保存と活用について、他の地方自治体では市外の人材活用の事例があるが、本市ではこれまで歴史文化資源に興味関心の高い市外の人材の活用事例がないといった現状がある。

このため、歴史文化資源に興味関心の高い市外の人材の活用が課題となっている。

- ・ **行政における歴史文化資源の保存・活用に携わる職員のスキルアップと人材確保**

本市の文化財行政を担当する専門職員は、埋蔵文化財専門職員のみであるが、埋蔵文化財発掘調査等への対応について、人材が慢性的に不足している。加えて、埋蔵文化財以外の幅広い分野の歴史文化資源に対応するための職員のスキルアップが必要となっている現状がある。

このため、行政における人材確保と人材育成が課題である。

3 方向性3 歴史文化資源を「守り伝える」上での現状・課題

- ・ **歴史文化資源の継続的な現状把握のための体制構築**

地域計画作成に伴う悉皆調査で2,000件を越える歴史文化資源の存在が明らかになったが、それらの継続的な状況把握が困難といった現状がある。

このことから、歴史文化資源の継続的な状況把握のための体制構築が課題である。

- ・ **保存が必要な重要性の高い歴史文化資源の価値付けと指定等**

本市の歴史文化資源には、保存が必要な重要性の高いものが含まれているといった現状がある。

そのような歴史文化資源の中には、価値付けが行われず指定等が行われていないものが多数存在するという課題がある。

- ・ **歴史文化資源に関する防災・防犯対策の策定**

貴重な歴史文化資源を守るためには、防災・防犯対策や、被災した際の対応が不可欠である。防災・防犯に関する具体的な現状と課題については、第8章に記載する。

- ・ **指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれの人的体制整備と施設の整備への対応**

地域の核となる施設である指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれは、劣化しやすい歴史文化資源の保存には最適な収蔵環境を持っている。しかしながら、人的体制が不十分であるとともに、収蔵施設の容量が限界に近づいているといった現状がある。

このため、指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれの人的体制整備と施設整備への対応が課題である。

- ・ **歴史文化資源によっては早急な修繕や環境整備等への対応**

指定等された歴史文化資源の中には、経年劣化で傷んでおり、修繕や整備が必要であるものがある。

このため、早急な修繕や環境整備等への対応と個別の保存活用計画の立案が課題となっている。

- ・ **歴史的な町並み等の歴史文化資源の保存に影響が出るような開発等への対応**

本市では歴史的な町並みや、街道沿いの松並木の保存への取り組みが行われていない現状がある。

このため、歴史文化資源の保存に影響が出るような開発等への対応が課題となっている。

4 方向性 4 歴史文化資源を「活かす」上での現状・課題

- ・ **歴史文化資源を学校教育や社会教育でさらに活用するための対策**

学校教育や社会教育においては、郷土の歴史文化資源を活用した教育の推進が求められているが、その機会が十分とは言えないといった現状がある。このため、学校教育や社会教育での歴史文化資源の活用をさらに増やすための対策が課題となっている。

- ・ **歴史文化資源を観光資源として活用するための仕組み作り**

本市は観光産業が主要産業の一つであるが、歴史文化資源を観光資源として十分に活かし切れていないといった現状がある。

このため、歴史文化資源を観光資源として活用するための仕組み作りが課題となっている。

- ・ **歴史文化資源の情報発信拠点として指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯはしむれの展示リニューアル等**

指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯはしむれは、これまで蓄積された歴史文化資源に関する情報が、博物館の常設展示に十分活用されていないといった現状がある。

このため、歴史文化資源の情報発信拠点として指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯはしむれの展示リニューアル等が課題である。

第4節 歴史文化資源の保存・活用に関する方針

1 歴史文化資源を「知る」上での方針

方針1 歴史文化資源の調査未着手分野の把握調査の実施を検討する

調査が未着手である、有形文化財の美術工芸品（絵画）、無形文化財、有形の民俗文化財、文化的景観、文化的資産のうち方言について継続的な把握調査の実施を検討する。

方針2 歴史文化資源の詳細な調査の実施を検討する

地域計画作成に伴い実施した悉皆調査で所在が明らかになった歴史文化資源のうち、詳細調査の必要性が高いものについて、計画的な詳細調査の実施を検討する。

方針3 歴史文化資源の調査のために研究機関などとの連携を推進する

大学等研究機関や学会との連携調査を推進することで、様々な分野の調査を促進する。

方針4 様々な手段や場で情報発信に努める

歴史文化資源については、指宿市考古博物館時遊館COCOはしむれの企画展・講座、市の広報紙やマップ、指宿市ホームページやSNSなど様々な手段で情報発信に努める。また、指定等の歴史文化資源については、現地の説明看板等を整備し情報発信を充実させる。そして、本市の郷土芸能・伝統行事は、市内外に広く周知することが重要であるため、様々な場で情報発信に努める。

2 歴史文化資源を担う「人材を確保する」上での方針

方針5 保存会の設立と運営をとおして担い手の確保に繋げる

指宿市郷土芸能保存会への支援を継続するとともに、指定等になっている歴史文化資源の所有者等による保存会の設立について支援し、担い手の確保に繋げる。

方針6 地域住民が歴史文化資源に関わる機会を創出する

地域における歴史文化資源の見守り活動などに繋がる新たな行事を推奨し、歴史文化資源に関わる市民を増やす活動を促進する。

方針7 歴史文化資源を学校の教育活動で活用する人材を確保する

本市の歴史文化資源に興味関心の高い人材や、郷土芸能の保存団体を学校の教育活動を支援する人材として活用する。

方針8 歴史文化資源を観光分野で活用する人材を確保する

火山銀座などの魅力的な素材を新たな観光ルートで活用することを促し、観光ガイドの人材確保に協力する。

方針9 市外の人材の活用を検討する

ボランティアや地域おこし協力隊等、歴史文化資源に興味関心の高い市外の人材を活用する方策を検討する。

方針10 歴史文化資源の保存・活用に携わる専門職員を適切に配置し、資質の向上を図る

歴史文化資源の保存・活用のために、計画的な発掘調査が実施できるように、文化財専門職員の適切な配置に努めるとともに、幅広い分野に関する職員の資質向上の機会を確実に設ける。

3 歴史文化資源を「守り伝える」上での方針

方針11 歴史文化資源の保存状況を継続的に記録できる体制を構築する

歴史文化資源のうち、指定されているものについては、継続的な文化財パトロールや指定文化財の清掃状況の記録を行う。また、所有者や地域と連携し、未指定の歴史文化資源の状況を記録できる体制を構築する。

方針12 歴史文化資源を適切に評価し指定等する

歴史文化資源のうち、重要性が高いものについては、指宿市文化財保護審議会において詳細な調査に基づいた価値付けを行い、順次指定等を行っていく。

方針13 歴史文化資源に関する防災・防犯対策を策定する

貴重な歴史文化資源を守るためには、防災・防犯対策や、被災した際の対応が不可欠である。防災・防犯に関する具体的な方針については、第8章に記載する。

方針14 指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれにおいて歴史文化資源の保存を図るために体制と施設を整備する

指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれでは、収蔵管理や、寄贈・寄託資料の選択的な受入を行う体制を作るとともに、収蔵庫を増設するための計画立案に取り組んでいく。

方針15 歴史文化資源の保存のために補助事業を活用して整備・修繕を実施する

市指定及び、市指定以外の歴史文化資源に関して、国・県・市補助金を活用して整備・修繕に対応する。

方針16 歴史文化資源の保存のための対策を検討する

歴史的町並みや街道沿いの松並木の保存対策に関する検討は、文化財保護部局だけでなく、国・県・市の建設関係部署等を含めて総合的に検討するべきである。このために、歴史文化資源の保存に影響が出るような開発への対応を目的とした協議会を設置し、対策を検討する体制を構築する。

4 歴史文化資源を「活かす」上での方針

方針17 歴史文化資源を教育・観光の場で活用できるよう仕組み作りに取り組む

学校教育においては、指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれの学芸員の活用や、まるごと博物館構想に伴い作成した教材と、いぶすきジュニア検定の活用を推奨する。社会教育においては、歴史文化資源を知る機会の充実、青少年育成事業や表彰制度などの活用に努める。

観光施設での歴史文化資源の紹介や、関連文化財群のワークショップを実施し、歴史文化資源を観光資源として活用する仕組み作りに協力する。

方針18 歴史文化情報の発信拠点として活用するために、指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ展示リニューアル等の整備を推進する

指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれの常設展示のリニューアルや外国語展示案内に着手するとともに、市内の美術館と連携した情報発信に取り組んでいく。